

1月27日の米国株式市場の下落について

ワクチン供給の遅れや一部の投機的な動きに警戒感

2021年1月28日

追加経済対策が株価下落の「保険」に

1月27日（現地、以下同様）の米国株式市場は、NYダウ、S&P500、ナスダック総合の主要3指数がそれぞれ2.05%、2.57%、2.61%下落しました。いずれも2021年に入ってからでは最大の下落率です。下落要因としては、以下のような点があげられます。

- 世界各国で感染力が強いとされる新型コロナウイルス変異種の感染が拡大していること
- 新型コロナウイルスのワクチンの供給において一部で遅れが生じていること
- 航空関連や半導体関連などで、一部企業の決算が低調だったこと
- 空売りの多い銘柄の急騰で多額の損失を計上した運用会社があり、市場の不安定化が懸念されたこと
- 昨年11月以降の急速な株価上昇に対する利益確定の動きが強まったとみられること

26日～27日に開催されたFOMC（米国連邦公開市場委員会）では、景気に関して慎重な見方が示され、非常に緩和的な金融政策の維持が決定されましたが、株価の支援材料にはならなかったようです。

今後は、バイデン大統領が打ち出した1.9兆米ドル規模の追加経済対策の動向が注目されます。最終的には減額される可能性が高いとみられていますが、規模に関しては足元の景気や新型コロナウイルスの動向次第の面もあるとみられ、株価下落に対する「保険」としての意味合いは大きいと思われる。

米国株価指数の推移



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。